

### 流行病をふせぐ意得

あしきやまひ　こゝろろ

およそ世にもめでたきもの、第一としいへばまづ其身くく  
 安穩無事息災は降つたる樂みより外にゐるまじく、打てか  
 りて厭ひしきもの、第一に地震雷鳴失火等とそれより澤山  
 恐しかるべきこととあれど何を除いても命壽ありての物種な  
 れば永の病氣やまたに急病速死頓死早世天變たとへ年老たり  
 どて仕合せ悪く流行病は犯されて親類縁者の看護もならず  
 此世を過して空しく一片の烟りと消失するその死ぬるといふ  
 大敵は附込まる、ほどの忌まひしき苦みよりほか大ひな  
 る惱はなかるべし、家財道具や金銀の一旦損失してもまたと  
 得らる、事もあれとも命壽ばかりの掛替のなき重寶なり箇様  
 などは孰も承知なれども餘り承知を仕過して遂に油斷大  
 敵となり流行病の大軍は吾本陣を攻落され取りて返せぬ後悔  
 を引招くなり、よしや敵の外より來らざとも病ひの賊の内具  
 もありまして今時外より責寄せんとし内より裏切らんこ  
 ろる様内と外と合体して難なくこの大切なる身体を犠牲に  
 供ふるに立至るべし其時慰れといふも早詮なしされば平生清  
 淨と不淨との差別をよくこゝろがけあるべし政府のお世  
 話も容易のとよあらそ人の生命を全ふし安心よこの世を過さ  
 せんとの厚き惠あるも意注かず鬱ししくおもふものもあら  
 んが大ひなる了簡遊ひなり我宗の信者より決してさる人にな  
 き善なり心清ければ身も清く身清ければ土地清しとして心穢れ  
 ての中々も身體の衛生も思束おし身體の衛生を思ぬ程の人な  
 らば衣類食物居所の注意も思案の外成べし夫故あるをかまな

らぬ第一の心なり心をおろそかよせぬとは心を清く持つな  
 り心を清く持つとは信心のとあり信心清く正ければ身體も居  
 所も必ずおろそかよならぬとこゝろづくべし法花經一部八卷  
 二十八品も此事を説きか、せたまへりされば祖師大菩薩は八  
 萬四千の法門は我身一人の日記文章とも仰せられ經文に此  
 經は持ち難しと説いてありこれまた祖師の仰せに依らば此身  
 は持ち難しといふとて言ふもいふ如く此身は決しておろそ  
 かよならぬ筈なれども兎角おろそかよるべきは信心なき人  
 の習ひなれば態と此身を持ち難しとのたまひしなるべし各々  
 の朝夕神々誓ひ佛またよるも何んと祈り玉ふや若持法華經甚  
 身甚清淨と繰返さるゝあるべし若し題目を唱へ法華經を持つ  
 程の心清き信者ならば其身いたがつて甚だ清淨なりといふ  
 となり其信者を守護せらるゝ、鬼子母大善神の受持法花名者福  
 不可量とて佛前の御契約あらせたまへりそれもこれも但これ  
 信心の清く正しきこと、一つあるべし水澄めば月は影を情  
 ませ信心の水清ければ神佛感應の月影の恵みも寛かなるべし  
 法度に背き衛生は怠りなべいかも慈悲深き神佛なりとも縁な  
 き衆生として却て現前の御罰あるべし先は流行病をふせがね  
 ばならぬと、得までを聊か陳て衛生の一助も添ふ若しその  
 ふせぎの簡條は粗諸君が疾くも意得あるべければこれは略し  
 置くなり明治十九年七月東京小傳馬町雲別院境内において  
 自山寶庫安備鬼子母大善神開扉中なるして施與を南無妙法蓮  
 華經若熱病若一日若二日乃至夢中亦復莫惱

正中山貫主 久保田日龜